

平成 27 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：環境中に放出された放射能に関する研究 英文：Evaluation of the erupted radioactivities into the environment
研究代表者	大橋英雄
参加研究者	杉原奈央子 白井厚太郎
研究成果概要	2011 年 3 月に東北沖で発生した地震と大津波は海洋環境を大きく改変したが，その程度について把握することは困難である．一方で福島第一原子力発電所事故によって多くの放射性核種が環境中に放出される原子力災害が発生した．本研究ではムラサキイガイと東北沿岸の柱状堆積物中の放射性セシウムを分析することで生体中の濃度変化や津波前後での海底堆積物の構造変化を把握することを試みた．試料は凍結乾燥・粉末化の後にプラスチック容器に定容量入れて半導体検出器で分析した．結果は論文発表前のため詳細は省略するが生体試料を分析することで福島第一原子力発電所からの距離と放射性セシウムの濃度の関係や時系列の変遷を明らかにすることができた．また柱状試料を分析することで柱状試料のどの部分からが津波以後に堆積しているかを明らかにすることができた．
整理番号	H03